

白馬村のナラ枯れ被害対策

1. 令和6年度ナラ枯れ現地検証及び対策会議概要（R6. 8. 29 開催）

(1) 検証

- ① 県内ナラ枯れは、平成16年がピークで一旦終息。県外でも発生と終息を繰り返している。
- ② ナラ類の適齢伐期は20年。被害木は伐期を大幅に超えている。更新伐が有効手段。
- ③ 令和5年以降、全国的に被害増加傾向。
- ④ 樹中にカシノナガキクイムシが生息しており温暖化により虫が活発になる。
- ⑤ 特にミズナラは弱く、同樹が多い白馬村では被害顕著。コナラは強く、復活した事例あり。
- ⑥ 松川より北側は激害地域、南側は微害地域と言える。
- ⑦ 和田野地区では地域主体で薬剤防除したところ、被害拡大を防ぐ一定の効果があった。
- ⑧ 被害縮減のため景観対策実施したが、被害を防げなかった。費用対効果を考えるべき。
- ⑨ 全ての樹の防除は不可能。地域住民による守るべき樹（リスク管理等）の選定必要。
- ⑩ 現状勘案すると、激害地域のくん蒸処理は効果薄い。
- ⑪ 県の森林簿によりナラ等広葉樹本数を考慮すると、処理実績は全体の0.27%程度。

(2) 今後の対策

- ① 伐倒くん蒸処理、景観対策として臨時的に処理したが、被害を防げなかった。所有者による次の行動が大事になる。
- ② 村は全ての樹を防除できないことを踏まえ、公有管理地を中心に対応するが、私有地は住民や観光客等への影響を考慮し、危険な個所を中心に支援する。
- ③ 微害地域では被害拡大を防ぐため、薬剤樹幹注入及び伐倒くん蒸を地域と連携して行う。

2. 処理実績（R7. 8. 26 現在）

処理本数及び処理費用	年度及び対策区分					計
	R3 リスク対策	R4 リスク対策	R5 リスク対策	R6（一部繰越） 景観対策 リスク対策	R7 所有者責任	
1 どんぐり区内・展望台	16	43	69	58		186
2 岩岳遊歩道	130	37	17	557		741
3 新田地区森林（奥山）	-	-	-	824		824
4 農政課直営 （伐倒くん蒸・薬剤注入）	約30	約50	約50	82	9	221
5 岩岳索道事業者	-	-	40	-		40
6 八方索道事業者	-	-	-	42		42
7 支障木伐採・森林病害虫 防除補助金	-	-	-	-	151	151
計（本）	176	130	176	1,563	160	2,205
処理費用（千円）	3,322	3,286	6,846	9,459	2,500	25,413

3. 令和7年の状況

令和6年度ナラ枯れ対策会議の結果を踏まえ、令和7年度から所有者責任を明確にするため、「支障木伐採・森林病虫害防除補助金事業」創設した。申請件数29件、本数151本、当初予算250万円終了したため9月議会において補正予算計上している。

補助事業名	対象経費	補助対象者	交付額
支障木伐採・森林病虫害防除事業	枯木等の支障木の伐採又は森林病虫害被害木の伐倒に要する経費	支障木又は森林病虫害被害木の土地所有者若しくは所有者から伐倒等の承諾を得た者	対象木1本当たり10,000円又は1施業当たり100,000円まで
	森林病虫害防除薬剤等の購入に要する経費	森林病虫害の予防に取り組む土地の所有者又は所有者の承諾を得た者、行政区、村長が認める団体	対象経費の2分の1 (上限40,000円)

今春は残雪が多く、4月から6月頃は気温もそれほど上昇せず、昨年と比較し、ナラ枯れは目立たなくなり、一旦終息を迎えたように思われた。7月は全国的に猛暑となり、白馬村でも暑い日が続く。特に7月後半からは、“熱中症警戒アラート発令”や“暑さ指数”が嚴重警戒レベルになる日もあった。このような状況下、7月の最終週に、岩岳地区、どんぐり区の山林や宅地周辺、八方地区の公共施設“ふれあいの杜”付近で、新たなナラ枯れが目立つようになり、さらには8月13日に、木流川遊歩道沿いで猛毒のカエンタケが発見され、2～3日後に遊歩道沿いナラが急激に枯れ始めた。

夏休みを迎え、“ふれあいの杜”周辺は、利用者も多くなってきたので、安全確保のために、役場直営で8月2日から5日に掛け、特に危険と思われるミズナラの伐倒くん蒸処理を実施した。処理期間中、なるべく木を残してほしいとのご意見もあったので、一部のミズナラは樹幹注入処理を実施した。木流川遊歩道沿いカエンタケは発見当日に役場直営で駆除した。



